

季節を記事にする

小野村 浩 東京都立田園調布高等学校教諭

1 授業のねらい

- ①日々の新聞記事の中から、テーマに沿った記事を探し出す目を養う。
- ②新聞記事を読み解し、要旨をまとめる力を身につける。
- ③日常生活の中から、季節を敏感に感じ取る感性を養う。
- ④自己の感じた情景を的確に表現する能力を身につける。

2 授業展開

①第1時 ▶ 導入

- ・新聞から得られる情報を分類・分析する。▶記事を示して、「季節」が感じられる部分について話し合わせる。
- ・持ち寄った新聞から、自分がもっとも季節を感じる記事を選び出し、ワークシートに張り付け、要旨をまとめる（時間内に完成しなかった場合は宿題とする）。

► ワークシート1

②第2時 ▶ 展開

- ・①で作った作品を回覧または掲示し、友人の作品を鑑賞する。
- ・各自が記者の目で身のまわりの風物・出来事から季節を感じ、記事にする。 ► ワークシート2
- ・前回の課題として提出された作品は、無作為にクラスに配布して、複数の友人の作品に目を通させる。
- ・時間内に完成しなかった場合は宿題とする。また、自分の記事に合った写真を探したり、イラストを描いて来るよう指示する。

③第3時 ▶ まとめ

- ・②で作った作品を提出させ、回覧または掲示して友人の作品を鑑賞し、評価シートを利用して相互評価させる。
- ・複数の作品を見てから、最も季節を感じる優秀作品を投票させる。

④第4時 ▶ 発展

- ・数名のグループに分かれて、自分たちの作品を編集して、「壁新聞」を作製させる。

3 評価の観点

- ①相互評価：タイトル(見出し)／記事の内容・構成／文章／写真やイラストについて、相互評価させる。
►評価シート
- ②指導者による評価：適時性・構成力・独自性・文章力・総合的完成度について、客観的に評価する（例えば各項目別にABCの3段階評価をする。また各項目を1点として、5点満点で点数化する）。

□ワークシート1

秋田魁新報 1999.9.8付夕刊

「季節だよりー秋ー」

秋田さきかけ

新聞

1999年9月8日(水曜日)

朝刊(夕刊)

第3面



トンボ

冬越すものも2種

秋田北高
高橋教諭

木々が秋の葉をまとう
このになれば、郊外には赤
トンボが自立つようにな
る。

赤トンボはトンボ目分類
カエルの仲間で、十四種が
いる。秋田北高の高橋雅
爾教諭によれば、「まだま
で赤色なわけではない。
県内でも最もボビュ
ラーノ赤トンボはアカカ
ネで、表わし色の体が八月
初めにから腹は黄色のま
まだが青色が赤くなる。全
身真っ赤になるのがナツ
カズ。ヒメモジの方がよ
り赤くなるそうだ。高橋教
諭は「異性を引
き付けるため
に赤くなるの
でじゅ」と推
測する。

生物を教える高橋教諭
は、小学生時代にトンボの
標本づくりを始めた。それか
らずっとトンボの研究に没
頭してきた。県内唯一のト
ンボ研究室で、これまでに
世界的記録十九
科約五千種が記録された。

トントン

成虫は数などの小昆虫
を食べるが、シオカラトン
ボは交尾中のアカタボを
狙うことなく、オソロサナ
ボなどといつてもヤマト
は体長十センチほど。イト
ガヤンマなどほんと
見られなくなってしまった。

トンボの仲間は二三十
種だ。

興版レッドデータ記
載されているものもあり、
秋田北高の高橋雅爾教諭は
秋田県内の沿地に採集に出
掛けた。水面を優雅に飛ん
でいるカマカボの仲間に
見られたが、「ぱく」
と説ひこに「田玉い」と
大きな湖になると、
されるメガネサナエの三
つ。トンボあまり見掛け
なかったのは「水田など
の用水路がコンクリートの
U字溝になり、細かい隙
は水を止めるため、ヤドリ
が育つ止水環境がない
のが原因だった。草川
内には越冬するトンボ
が二種類いる。オシント
ンボ、ホソミオシントン
ボ。五六月に卵卵化
して、子供時代にいろんな
種類のトンボを見掛けるよ
うになったのが、トンボが
大きくなってしまった。
木々が秋の葉をまとう
このになれば、郊外には赤
トンボが自立つようにな
る。

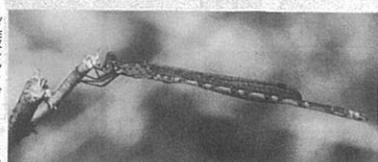
トンボはトンボ目に分類
され、トンボ目とは「の
透明で網状の羽を持った頭
部に大きな複眼短い触角
がで難伏せぬ、なかなか
捕まえどんギンヤマ
だが、強捕まで糸で結
んで飛ばすと、雄のオニヤ
マが交尾しようと、くつ
ついてくる。二匹がからま
ったまま地面に落ちたとい
ふを読んだ何匹も捕ま
えただけだ。

今月初め、高橋教諭は
秋田県内の沿地に採集に出
掛けた。水面を優雅に飛ん
でいるカマカボの仲間に
見られたが、「ぱく」
と説ひこに「田玉い」と
大きな湖になると、
されるメガネサナエの三
つ。トンボあまり見掛け
なかったのは「水田など
の用水路がコンクリートの
U字溝になり、細かい隙
は水を止めるため、ヤドリ
が育つ止水環境がない
のが原因だった。草川
内には越冬するトンボ
が二種類いる。オシント
ンボ、ホソミオシントン
ボ。五六月に卵卵化
して、子供時代にいろんな
種類のトンボを見掛けるよ
うになったのが、トンボが
大きくなってしまった。
木々が秋の葉をまとう
このになれば、郊外には赤
トンボが自立つようにな
る。

越冬するホソミオシントンボ

冬越り人たる

△⑤



さいひ見なし」と漏らし
た。
オニヤマやギンヤマ
は里山にすれば、「まだま
だいるそだ」スリード
豊かで難伏せぬ、なかなか
捕まえどんギンヤマ
だが、強捕まで糸で結
んで飛ばすと、雄のオニヤ
マが交尾しようと、くつ
ついてくる。二匹がからま
ったまま地面に落ちたとい
ふを読んだ何匹も捕ま
えただけだ。

今月初め、高橋教諭は
秋田県内の沿地に採集に出
掛けた。水面を優雅に飛ん
でいるカマカボの仲間に
見られたが、「ぱく」
と説ひこに「田玉い」と
大きな湖になると、
されるメガネサナエの三
つ。トンボあまり見掛け
なかったのは「水田など
の用水路がコンクリートの
U字溝になり、細かい隙
は水を止めるため、ヤドリ
が育つ止水環境がない
のが原因だった。草川
内には越冬するトンボ
が二種類いる。オシント
ンボ、ホソミオシントン
ボ。五六月に卵卵化
して、子供時代にいろんな
種類のトンボを見掛けるよ
うになったのが、トンボが
大きくなってしまった。
木々が秋の葉をまとう
このになれば、郊外には赤
トンボが自立つようにな
る。

秋田市に歸る高橋雅爾教諭
は、小学生時代にトンボの
標本づくりを始めた。それか
らずっとトンボの研究に没
頭してきた。県内唯一のト
ンボ研究室で、これまでに
世界的記録十九
科約五千種が記録された。
トントン

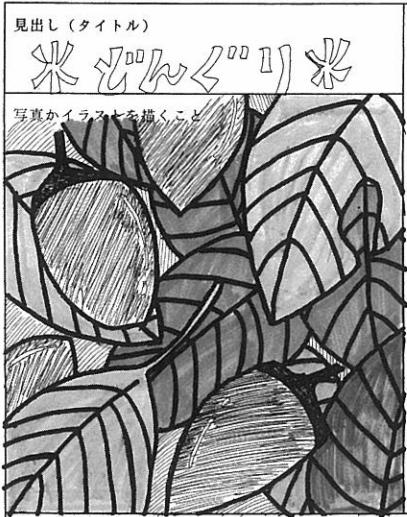
・この記事の要旨をまとめ。(300字程度)

秋田北高の高橋雅爾教諭は、供時代にいろいろな種類のトンボを見掛けようになってしまったと云う。しかし、高橋教諭が県内に生息するトンボで未確認なのが能代地区にいるカマカボだ。雨の中、池などにいるルリットンボだ。見掛けたが、「ぱく」と説ひこに「田玉い」と大きな湖になると、されるメガネサナエの三つ。トンボあまり見掛けなかったのは「水田など用水路がコンクリートのU字溝になり、細かい隙は水を止めるため、ヤドリが育つ止水環境がないのが原因だった。草川内には越冬するトンボが二種類いる。オシントンボ、ホソミオシントンボ。五六月に卵卵化して、子供時代にいろんな種類のトンボを見掛けるようになったのが、トンボが大きくなってしまった。大人には見つけられることで、大きな世界だ。

□ワークシート 2a

「季節だより一秋一」

*あなたの身近な生活の中で「秋」を感じた風物や出来事を記事にしてください。



ち	然	い	行	一
葉	び	た	週	週
と	、	た	間	間
ど	と	た	位	位
ん	ど	た	前	前
き	ん	た	朝	朝
ぐ	ぐ	た	い	い
り	り	は	つ	つ
な	な	ま	も	も
秋	秋	た	通	通
へ	へ	ま	り	り
の	の	た	り	り
變	變	は	通	通
時	時	は	り	り
に	に	立	り	り
わ	わ	ち	る	る
そ	そ	止	ま	ま
の	の	ま	ま	ま
が	が	ち	か	か
す	す	落	車	車
く	く	ま	か	か
の	の	ち	曲	曲
も	も	た	駅	駅
落	落	な	が	が

感	を	気	よ	た	う	ど	ら	ら	こ	ち	付	う	秋
じ	感	ぞ	き	た	う	り	が	し	と	葉	や	や	に
た	じ	じ	も	し	た	り	茶	く	も	思	い	い	な
レ	た	た	た	た	た	り	色	見	思	い	ん	ん	?
や	れ	私	が	し	し	い	系	来	出	思	い	い	?
言	と	お	お	に	こ	マ	た	事	出	出	い	い	?
え	る	見	見	近	く	タ	二	以	來	出	い	い	?
お	う	一	一	く	も	リ	二	以	來	出	い	い	?
か	よ	け	け	く	モ	雜	ト	急	來	出	い	い	?
も	り	た	た	な	ラ	貨	系	來	來	出	い	い	?
し	し	秋	秋	な	フ	屋	例	急	來	出	い	い	?
れ	れ	は	は	な	ト	屋	例	來	來	出	い	い	?
な	な	し	し	な	二	秋	の	急	來	出	い	い	?
さ	さ	さ	さ	な	一	秋	の	來	來	出	い	い	?
を	を	を	を	な	一	秋	の	急	來	出	い	い	?

評価シート

「季節だより一秋一」 剣道部自己発表 (評価シート)

* 友人の作品を見て、次の項目について率直に意見を書いてください。

評価は A・B・C で書いてください。

- | | | |
|--------------------------------|---------------------------|---|
| 氏の作品。見出し(タイトル) | どんぐり | |
| 1. 見出し(タイトル)について。 | もう少し 記事の見出しがいい
方がいい。 | B |
| 2. 記事の内容・構成について。 | 感想が多い。取材が少な
い。 | B |
| 3. 文章について。 | エッセイのような、作文のよう
ところがいい。 | A |
| 4. 写真やイラストについて。 | ヒモよい。色の使い方が
うまい。 | A |
| 5. 総合的に見て、この記事からどのように「秋」を感じたか。 | 作文みたいだが、秋らしい内容
である。 | A |

新聞には季節がいっぱい

新聞には季節を感じる記事がたくさんあります。「桜の開花」「台風」などの自然現象、「祭り」といった文化や風物などさまざまです。

「水不足深刻」「ビアガーデンがオープン」などの記事は、現代的な季語といえるでしょう。ほかにもまだまだあるはずです。創造力を働かせて、新聞の中に季節を見つけてください。近い将来、新しい季語として歳時記に載るかもしれません。

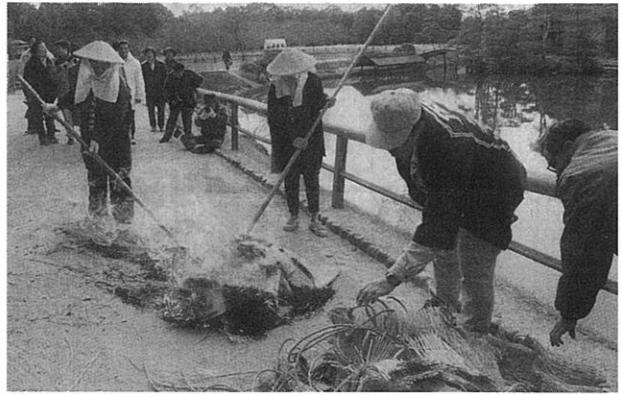
寒波続々春の足音

早春風物詩、後楽園
(岡山市)の「松のこも
焼き」が十九日、築庭
三百周年記念の同園で行
われた。この中に趣冬
した書生が取除するが
狙いでこれが外された
国内の松が、「コート」
脇に本格的な春の訪
れを待つ。

午前二時から作業員十五
人が、園内にある約百
八十本のカマツクロ
マンの枝垂れ等付けられ
たもの、総一千八百五十
五株、最も高い三三五を
手際良く取り外して焼い
た。火に比べられたものが
「バババ」と音を立て
て燃え上り、煙を放つ。

松も「コート、脱ぐ

後楽園でこも焼き



勢いよく燃え上がる松のこも=29日午前10時15分、岡山市・後楽園

て燃え上り、園内に煙
が立ち込める。晴れた
日、地二一・五五
晴天が訪れた札幌
観光客のカメラで撮
影された。高さの幹にいわき巻
市の主婦福岡孝子さん
が、最初の見事に「
木が動いた」と驚いた。
木が倒れて、長い冬終わ
り。木は寒さが厳しい
なる雪が枝先から下
りて枯れ草などに燃
り、雪と一緒に雪をね
と話していた。

□ワークシート2b

「季節だより一秋一」

*あなたの身近な生活の中で「秋」を感じた風物や出来事を記事にしてください。

見出し(タイトル)

日本各地の紅葉

写真かイラストを描くこと



内	長	野	櫻	世	古	紅	群	伊	人	日	盛	日
延	命	寺	大	阪	な	葉	生	豆	々	本	り	本
寺	寺	寺	阪	と	ど	葉	杯	半	が	各	て	各
一	の	の	の	の	の	の	の	島	増	地	て	地
の	の	の	の	の	の	の	の	島	え	の	十	の
紅	河	河	河	河	河	河	河	島	7	秋	一	秋
の	の	の	の	の	の	の	の	島	7	に	月	に
の	の	の	の	の	の	の	の	島	7	に	に	に
の	の	の	の	の	の	の	の	島	7	に	に	に
の	の	の	の	の	の	の	の	島	7	に	に	に
の	の	の	の	の	の	の	の	島	7	に	に	に

は	れ	度	で	遅	れ	異	京	包	の	山	紅	い
最	の	だ	じ	紅	れ	常	都	の	紅	通	葉	の
適	が	が	が	葉	れ	気	の	葉	葉	天	葉	あ
な	が	が	が	葉	れ	象	の	葉	葉	は	葉	う
日	統	二	見	る	る	域	の	葉	葉	に	葉	う
に	く	れ	る	る	る	域	の	葉	葉	し	葉	。す
ば	の	か	れ	る	る	域	の	葉	葉	て	葉	。
よ	で	う	る	る	も	で	の	葉	葉	の	葉	。
し	紅	太	よ	あ	り	紅	の	葉	葉	の	葉	。
よ	葉	平	よ	あ	り	葉	の	葉	葉	の	葉	。
く	め	洋	は	ま	だ	の	の	葉	葉	の	葉	。
ぐ	ぐ	側	だ	だ	だ	時	の	葉	葉	の	葉	。
り	り	が	に	札	に	期	の	葉	葉	の	葉	。
に	晴	程	に	幌	に	幌	の	葉	葉	の	葉	。

評価シート

「季節だより一秋一」 評価シート
* 友人の作品を見て、次の項目について率直に意見を書いてください。

評価は A・B・C で書いてください。

氏の作品。見出し(タイトル) 日本各地の紅葉

1. 見出し(タイトル)について。

 そのものズバリ!

評価

A

2. 記事の内容・構成について。

 ガイドブックのようだが、身近な秋が感じられるのが、残念だった。

B

3. 文章について。

 うまい。本当に記事のようだと思った。

A

4. 写真やイラストについて。

 きれい。工夫がある。

A

5. 総合的に見て、この記事からどのように「秋」を感じたか。

 本当に記事のよう。秋という感じがよく出ている。

A

発展・応用

- ①クラス内を数名ずつにグループ分けして、生徒の書いた記事を集めて「壁新聞」を作製させる。
- ②見出し部門・写真イラスト部門・記事部門などに分けて、生徒たちの作品を相互評価させて、優秀作品を掲示発表する。
- ③「春」「夏」「秋」「冬」のグループをつくり、交代で新聞を発行させる。
- ④生徒が交代で編集を担当、他の生徒たちから提出された記事を取り扱って編集し、定期的にクラス新聞を発行させる。
- ⑤通年の取り組みとして、各自にスクラップノートを作らせ、新聞記事から毎週の「歳時記」を集めさせる。また、各自で自分の書いた「歳時記」をまとめて、一年の季節の移り変わりを記録させる。
- ⑥「季節」の他にいろいろなテーマを設定することもできる。

テーマ例

- 高校生活(教育問題)
- 文化、芸術、音楽……
- 國際関係(政治、文化、経済……)
- 食べ物
- 流行(事象、ファッション、言語)
- 人物
- 歴史
- 自然、動物、植物
- 自然保護・生活環境
- 情報化
- 言語生活など